シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	情報処理		
必修選択	選択	（学則表記）	情報処理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	①情報基礎演習　保育士・栄養士のための 　パソコン操作編 ②教育デジタルトランスフォーメーション　基礎		出版社	①一粒書房 ②一粒書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	ビジネス文書の作成、集計表を交えたグラフの作成方法など基本的な操作を学び実践的に適用する力を付ける。
到達目標	新規からデザイン性のある文書を作成できるようにする。 コンピュータの情報倫理、ネットの脅威とセキュリティ教育を理解し、基礎技術を習熟する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	出町 啓	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、成績評価の基準について説明
2 3	パソコンとインターネット	・情報基礎演習Ｐ２～P30 ・パソコンの基本とメールの利用、ファイルの操作と入力練習
	第1章 情報を学ぶ意義	・教育デジタルトランスフォーメーション　P1～P8 ・デジタルトランスフォーメーション、Society5.0、ギガスクール構想、６G、社会生活とコンピュータ
4 5	Office操作　Word編	・情報基礎演習P32～P49 ・Wordの基本操作
	第2章 コンピュータの基礎	・教育デジタルトランスフォーメーション　P10～P26 ・ハードウェアとソフトウェア、ファイル管理、コンピュータとは
6 7	Office操作　Word編	・情報基礎演習P50～P67 ・おたよりを作成しよう
	第３章 インターネットの利用	・教育デジタルトランスフォーメーション　P28～P36 ・インターネットについて
8 9	Office操作　Word編	・情報基礎演習P68～P89 ・掲示用ポスターを作成しよう
	第３章 インターネットの利用	・教育デジタルトランスフォーメーション　P37～P48 ・情報検索について

10 11	Office操作　Word編	・情報基礎演習P90～P105 ・レポートを作成しよう
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P50～P60 ・メールの形式、宛先（TO・CC・BCC）、署名の形式、メールアドレスとメールの送受信
12 13	Office操作　Word編	・情報基礎演習P106～P124 ・知っていると便利な機能
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P61～P77 ・文書作成の基本とルール、フォント、資料の収集・参考文献と引用文献
14 15	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P126～P147 ・Excelの基本操作
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P78～P80 ・プレゼンテーションとは、準備も含めた全体の流れ
16 17	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P148～P161 ・簡単な関数を使ってみよう
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P81～P88 ・プレゼンテーションの企画、PREP法
18 19	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P162～P170 ・割合を計算するテクニック
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P89～P101 ・資料作成の基本、発表技法（話し方）・（態度）
20 21	Office操作　Excel編	・情報基礎演習P171～P184 ・知っていると便利な機能
	第４章 コミュニケーションと情報発信	・教育デジタルトランスフォーメーション　P102～P108 ・非言語コミュニケーション、リハーサル・質疑応答への対応、次回の為の振り返り
22 23	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P186～P201 ・PowerPointの基本操作
	第５章 セキュリティを考える	・教育デジタルトランスフォーメーション　P110～11 5 ・情報セキュリティ・ポリシー、ウィルスとは、ウィルス対策
24 25	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P202～P210 ・知っていると便利な機能①
	第５章 セキュリティを考える	・教育デジタルトランスフォーメーション　P116～120 ・不審メール、ウィルス感染時の対処、インターネットの詐欺、インターネットの詐欺から身を守る
26 27	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P211～P220 ・知っていると便利な機能②
	第６章 さまざまなインターネットサービス	・教育デジタルトランスフォーメーション　P122～128 ・クラウドサービス、オンラインツール、SNSの利用、クラウドサービスでの情報共有、YouTubeでの動画投稿
28 29	Office操作　PowerPoint編	・情報基礎演習P221～227 ・スライドでポスター作成
	第７章 社会人として知るべき法律等	・教育デジタルトランスフォーメーション　P130～145 ・個人情報保護法、著作権、守秘義務、情報漏えい、情報化を進めるために
30	まとめ	振り返りをしてまとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	ペン字		
必修選択	選択	（学則表記）	ペン字		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	きれいな文字の書き方		出版社	二玄社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	社会におけるペン習字の必要性を知り、社会人として相応しい書写力を身につける。 美しい文字を書くための基本的な知識と技術を身につける。
到達目標	丁寧な文字、すなわち他者にこころよい印象を持たれるような文字を書くことができる。 場面に応じた筆記具、書き方を自ら使い分けすることができる。 落ち着いて、丁寧に文字を書く習慣を身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・硬筆書写技能検定3級
関連科目	
備考	原則、この授業は対面授業式にて実施する。

担当教員	乾 純子	実務経験	○
実務内容	書道教室にて指導経験あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	ひらがなの基本	・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
3		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
4		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
5		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
6		・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
7	ひらがなのまとめ	・ひらがな一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいひらがなを書く。
8	カタカナの基本	・カタカナ一字ずつの特徴を捉えて、正しく美しいカタカナを書く。

9	漢字の基本(楷書)	・筆順について
10		・基本点画
11		・基本点画
12	漢字の基本(楷書)	・字形の整え方
13		・字形の整え方
14		・字形の整え方
15		・字形の整え方
16		・字形の整え方　・部首名　・楷書のまとめ
17	漢字とひらがなの調和（楷書）	・四字熟語、漢字仮名交じりの言葉を書く
18	行書の基本・かなの発展	・行書の特徴
19		・行書の特徴 ・行書に調和するひらがなの書き方について
20	漢字とひらがなの調和（行書）	・四字熟語、漢字仮名交じりの言葉を書く
21	俳句・日常書式	・漢字と仮名の調和を考えながら俳句を書く ・数字、アルファベット、横書きの書き方について
22	都道府県、都市名を書く	・都道府県名、都市名を楷書・行書で書く
23	はがき、手紙、のし袋を書く	・名前を楷書、行書で書く　・連綿の書き方
24		・はがき、封筒、手紙文の書式を学習する ・のし袋の書き方を学習する
25	履歴書を書く	・履歴書の書き方を学習する
26		・履歴書の書き方を学習する
27		・履歴書の書き方を学習する
28	作品制作	・1年間で学んだことを生かした作品作り
29		・1年間で学んだことを生かした作品作り
30	まとめ	・作品発表　・これまでの復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	基礎学力演習		
必修選択	選択	（学則表記）	基礎学力演習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	（**改訂**）保育学生のための基礎学力演習		出版社	中央法規出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・保育士として必要な基本用語や教養を理解する。 ・社会人としての常識を理解し、身につけることができる。
到達目標	・保育用語と日本語の基本的仕組みを取り入れた適切な文章が書ける。 ・名作や名言と呼ばれる作品に触れることで、豊かな感受性を身につける。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ総合的な観点で評価する。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許
関連科目	
備考	
担当教員	植村 梓
実務経験	○
実務内容	小学校にて養護教諭として勤務・専門大学校にて医務室で勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Lesson1	保育に関する基本事項/文節/作文・小論文の書き方
2	Lesson 2	5領域/主語と述語/基本的なマナー
3	Lesson 3	子どもの育ち①/修飾語/平仮名と片仮名
4	Lesson 4	子どもの育ち②/指示語/尊敬語①
5	Lesson 5	子どもの育ち③/動詞/尊敬語②
6	Lesson 6	遊びに関わる子どもの発達/品詞/謙譲語
7	Lesson 7	子どもの遊び/オノマトペ/実習オリエンテーションのマナー
8	Lesson 8	遊びの形態/能動態と受動態/実習の髪型、メイク、服装
9	Lesson 9	母子の絆/仮名遣い①/園での言葉遣い

10	Lesson10	保育の形態①/仮名遣い②/暑中見舞いの書き方等
11	Lesson11、12	保育の形態②/接続語①/安全対策/保育の形態③/接続語②/守秘義務
12	Lesson13	保育の計画/接続語③/ネット、SNS等のマナー
13	Lesson14	基本的生活習慣/接続語④/ら抜き言葉
14	Lesson15	子どもの食と栄養①/接続語⑤/掃除の仕方
15	まとめ、復習	まとめ、復習
16	Lesson16	子どもの食と栄養②/接続語⑥/ペンの持ち方
17	Lesson17	子どもの保健/可能表現/お茶の作法
18	Lesson18	子どもの生活/適切な表現①/長音表記
19	Lesson19	幼児教育/適切な表現②/食事のマナー
20	Lesson20	保育の職場/敬語①/時間の計算
21	Lesson21	注意すべき病気/敬語②/よくある表記の間違い
22	Lesson22	子どもの福祉/適切な表現③/海外保育事情
23	Lesson23	安全/比喩/間違いやすい同音・同訓意義語
24	Lesson24	日常における保育の進め方/四字熟語/季節の行事
25	Lesson25	虐待への対応/帰納法/**文化の源となってきた神様・仏様のこと**
26	Lesson26	保育に関する相談/演繹法/心理のお話
27	Lesson27	障害児保育/弁証法/身近な自然
28	Lesson28	幼保小の連携/適切な表現④/お礼状の書き方
29	Lesson29、30	これからの保育と教育/適切な表現⑤/昆虫や小動物の飼育/ことわざ/適切な表現⑥/保育者としての心構え
30	総復習	まとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	未来デザインプログラムⅠ		
必修選択	必修	（学則表記）	未来デザインプログラムⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	7つの習慣Ｊテキスト 夢のスケッチブック（WEBアプリ）		出版社	FCEエデュケーション	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	7つの習慣を体系的に学ぶことを通じ、三幸学園の教育理念である「技能と心の調和」のうち「心」の部分を身につける。
到達目標	・7つの習慣について、自身の言葉で説明することができる。 ・7つの習慣を自らの生活と紐づけ、前向きな学習態度として体現することができる。
評価基準	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
認定条件	・出席が総時間数の３分の２以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	なし
関連科目	就職指導
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	宮下 翔	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	専門学校へようこそ！	夢のスケッチブックアプリの使い方を学ぶ SANKOワークコンピテンスの理解を深める
2	7つの習慣とは？	7つの習慣とは何か学ぶ 夢のスケッチブックを使って日誌を書くことの意味を学ぶ
3	自分制限パラダイムを解除しよう！	自分制限パラダイムの意味について学ぶ
4	自信貯金箱	自信貯金箱の概念を理解する 自分自身との約束を守る大切さを学ぶ
5	刺激と反応	「刺激と反応」の考え方を理解する 主体的に判断・行動していくことの大切さを学ぶ

6	言霊～ことだま～	言葉の持つ力や自分の言動が、描く未来や成功に繋がっていくことを学ぶ
7	影響の輪	集中すべき事、集中すべきでない事を明確にすることの大切さを学ぶ
8	選んだ道と選ばなかった道	自分が決めたことに対して、最後までやり遂げる大切さを学ぶ
9	割れた窓の理論	規則を守る大切さ、重要性を理解する
10	人生のビジョン	入学時に考えた「卒業後の姿」をより具体的に考え、イメージする
11	大切なこととは？	なりたい自分になるために優先すべき「大切なこと」には、夢の実現や目標達成に直接関係することだけではなく、間接的に必要なこともあることを学ぶ
12	一番大切なことを優先する	スケジュールの立て方を学ぶ 自らが決意したことを実際の行動に移すことの大切さを学ぶ
13	時間管理のマトリクス	第２領域（緊急性はないが重要なこと）を優先したスケジュール管理について学ぶ
14	私的成功の振り返り	前期授業内容（私的成功）の振り返りを行う
15	リーダーシップを発揮する	リーダーシップを発揮するためには、「主体性」が問われることを学ぶ
16	信頼貯金箱	信頼貯金箱の概念を理解し、周囲から信頼されるための考え方を学ぶ
17	Win-Winを考える	お互いがハッピーになれる方法を考えることの大切さを学ぶ
18	豊かさマインド	人を思いやることは自分自身のためでもあることを学ぶ
19	理解してから理解される	人の話の聴き方を考え、「理解してから理解される」という考え方があるということを学ぶ
20	相乗効果を発揮する	人と違いがあることに価値があることを学ぶ
21	自分を磨く	自分を磨くことの大切さ、学び続けることの大切さを考える
22	未来は大きく変えられる	人生は選択の連続であり、未来は自分の選択次第であることを学ぶ
23	人生ビジョンを見直そう	将来のなりたい姿を描き、同時にその生活の実現にはお金が必要であることを学ぶ 現実的なライフプランの大切さを理解する
24	未来マップを作ろう①	未来の自分の姿（仕事、家庭、趣味など）を写真や絵で表現するマップを作成し、将来の夢を実現するモチベーションを高める
25	未来マップを作ろう②	未来マップの発表を通して、自身の夢を実現する決意をする
26	感謝の心	人間関係構築/向上の基本である感謝の心について考える
27	7つの習慣授業の復習	7つの習慣の関連性を学ぶとともに、私的成功が公的成功に先立つことを理解する
28	未来デザインプログラムの振り返り	７つの習慣など、未来デザインプログラムで学んだことを復習（知識確認）する
29	2年生に向けて①	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える
30	2年生に向けて②	1年後の自分の姿を鮮明にし、次年度への目標設定を考える

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	英語		
必修選択	選択	（学則表記）	英語		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	保育の英会話		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・保育に必要な英語の基礎を身につける。 ・英語でのコミュニケーションに慣れる。 ・他言語、異文化、習慣について理解を深める。
到達目標	・保育に関する専門的英単語、会話文を理解し伝えられるようになる。 ・保育に必要な基礎的ヒアリング能力を習得し、会話の中で聞き取れるようになる。 ・外国人の子供や保護者､スタッフに対応するための素養を身につけ、保育現場で活かせるようになる。
評価基準	授業参加姿勢（積極性、協調性、マナー等）30%、テスト50%、レポート・課題20%　を 基本配分とする総合評価。
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が3以上の者
関連資格	保育士・幼稚園教諭二種免許
関連科目	
備考	原則、この授業は対面授業式にて実施する。
担当教員	油谷 脩　　実務経験
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育の英会話への第一歩	はじめに Unit 1: First Step to Childcare English
2	みなと保育園にようこそ	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School
3	時間と数	Unit 3: Time and Numbers
4	地図と道案内	Unit 4: Directions
5	デイヴィーとクラスメイトの出会い	Unit 5: Davy Meets His classmate Takashi
6	デイヴィーの登園、降園	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up
7	保育園での仕事	Unit 7: Jobs at Nursery school
8	昼食	Unit 8: Lunchtime

9	排泄に関する表現	Unit 9: Toilet Dialog
10	けんか	Unit 10: Fighting
11	けがと病気	Unit 11: Injuries and Illnesses
12	電話での応対 遠足	Unit 12: Telephone Calls: Unit 13: Field Trip
13	振り返り	前期試験
14	赤ちゃんのケア	Unit 14: Baby Care
15	卒園	Unit 15: Graduation day
16	単語復習	単語のまとめ
17	文法復習	文法のまとめ
18	振り返り	振り返り
19	年間行事：家系図, ヒアリング	年間園行事予定の英単語、祝祭日･日付の英語での表現。家族の英単語、長文のヒアリング
20	折り紙、形を表す英単語	形・色を表す英単語学び、折り紙を英語で行う
21	交通手段、乗り物	交通手段と、乗り物に関する単語
22	クリスマス	クリスマスの文化を学ぶ、グリーティングカードのアイデア
23	クリスマス	クリスマスの歌、料理の英語レシピ、単位、
24	英語ミニ知識	異言語・異文化・多文化への理解
25	英会話	電話対応のヒアリング練習とメモの記入法、パートナーインタビュー
26	卒園・祝福・記念日	祝福方法や記念日の表現について学ぶ
27	英語の歌	英語の歌の練習
28	英語の歌	英語の歌の練習、発表
29	振り返り	後期試験
30	総まとめ	各項の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育原理		
必修選択	必修	（学則表記）	保育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	①『生活事例からはじめる保育原理』5版 神蔵幸子・宮川萬寿美・中川秋美 ②平成29年告示版　幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園 教育・保育要領 原本		出版社	①青踏社 ②チャイルド本社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育の意義及び目的について理解する。保育に関する法令に基づく制度について学び、幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育保育要領に則った保育の基本・目標と方法について理解する。また保育の思想と歴史的変遷を学び、保育の現状と課題について考える。
到達目標	①保育の意義及び目的について理解する。 ②保育に関する法令及び制度を理解する。 ③保育所保育指針における保育の基本について理解する。 ④保育の思想と歴史的変遷について理解する。 ⑤保育の現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	大路 恵	実務経験	○
実務内容	保育園にて主任・子育て支援業務・新人研修等を担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育を学ぶということ	「保育」とは
2	保育を学ぶということ	保育者に求められていること
3	子ども理解	子どもを理解するとは
4	子ども観・保育観	外国の保育思想に学ぶ
5	子ども観・保育観	日本の保育思想に学ぶ
6	これまでのまとめ	まとめ
7	保育の理念を支える法規	保育の理念を支える法規

8	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能	幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
9	保育の目標と内容	保育の目標と内容
10	保育の目標と内容 保育の方法	「領域」の考え方
11	保育の目標と内容	幼稚園教育要領における保育内容
12	これまでのまとめ	まとめ
13	保育の計画と評価	保育の計画と評価
14	子どもの育ち・学びの連続性	幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
15	日本の保育の現状と課題	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題
16	海外の保育事情	海外の保育に関する考え方を学び、様々保育実践について学ぶ
17	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育を学ぶということ	「保育」とは 保育者に求められていること
21	子ども理解 子ども観・保育観	子どもを理解するとは 外国・日本の保育思想に学ぶ
22	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の 制度と機能	保育の理念を支える法規 幼稚園・保育所・認定こども園の制度と機能
23	保育の目標と内容 保育の方法	保育の目標と内容 「領域」の考え方
24	これまでのまとめ	まとめ
25	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
26	保育の計画と評価 子どもの育ち・学びの連続性	保育の計画と評価 幼児教育（就学前教育）と小学校教育（就学後）の学びそれぞれの目的と学び方の違い
27	日本の保育の現状と課題 海外の保育事情	子どもを取り巻く日本の様々な現状や課題 海外の保育に関する考え方を学び、様々保育実践について学ぶ
28	子育て支援	子育ての支援内容、支援対策について学ぶ
29	保育者のあり方	専門家としての保育者のあり方について学ぶ
30	年間総復習	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	教育原理		
必修選択	必修	（学則表記）	教育原理		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『人物で学ぶ教育原理 第13刷』中村弘行著		出版社	三恵社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	教育の理念、思想、歴史などの検討を通して教育学の基礎的な知識について体系的に学ぶとともに、教育にかかわる今日的な課題についても原理的に考察する。教えることや学ぶことはどのような営みなのか、先人の教育観や子ども観を学び、現代的に考えることができるようにすることを目指す。
到達目標	①教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する。 ②教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。 ③教育の制度について理解する。 ④教育実践の様々な取り組みについて理解する。 ⑤生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	古澤 依里
実務経験	○
実務内容	公立保育園にて担任・副主任として勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	教育の意義	教育の目的や意義、保育と教育の関係・養護と教育（5領域）
2	西洋の教育思想	コメニウス、ロック、ルソーの啓蒙主義の教育思想
3	西洋の教育思想	フレーベル、デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
4	日本の教育思想 （江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵、福沢諭吉の思想
5	これまでのまとめ	まとめ
6	日本の教育思想 （江戸～昭和）	森有礼、倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
7	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想
8	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立

9	日本教育史	近世以降の地域における教育、学制以降の教育
10	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
11	これまでのまとめ	総復習
12	教育行政・制度	教育委員会・生涯学習・学校選択制について学ぶ
13	これまでのまとめ	まとめ
14	教育の意義	養護と教育（5領域）
15	西洋の教育思想	コメニウス、ロックの啓蒙主義の教育思想
16	西洋の教育思想	ルソー、フレーベルの経験主義の教育思想
17	西洋の教育思想	デューイ、モンテッソーリの経験主義の教育思想
18	これまでのまとめ	まとめ
19	日本の教育思想 （江戸～明治）	貝原益軒、佐藤信淵の思想
20	日本の教育思想 （江戸～明治）	福沢諭吉、森有礼の思想
21	日本の教育思想 （江戸～明治）	倉橋惣三、城戸幡太郎の思想
22	外国教育史	近代までの子ども観・教育観、ソクラテスの教育思想
23	外国教育史	大学の設置・教会による教育、近代公教育制度の成立
24	日本教育史	近世以降の地域における教育
25	日本教育史	学制以降の教育
26	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
27	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
28	理想の教育実践	学校制度成立以降の教育実践
29	これまでのまとめ	まとめ
30	年間総復習	総復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	社会福祉		
必修選択	選択	（学則表記）	社会福祉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『生活事例からはじめる 新版社会福祉』（改訂版）		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷、社会福祉における子ども家庭福祉の視点を理解する。社会福祉の制度や実施体制を理解するとともに、相談援助について学ぶとともに、利用者の保護に関わる仕組みについて理解を深める。さらに社会福祉の動向と課題を考察する。
到達目標	①現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷及び社会福祉のおける子ども家庭支援の視点について理解する。 ②社会福祉の制度や実施体系等について理解する。 ③社会福祉における相談援助について理解する。 ④社会福祉における利用者の保護に関わる仕組みについて理解する。 ⑤社会福祉の動向と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	小林 生
実務経験	○
実務内容	小規模住居型児童療育事業に従事

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	年間予定　諸注意
2	社会福祉の歴史的変遷①	社会福祉の取り組みは貧困問題から、海外の貧困問題の歴史的取り組みやその原因について、わが国の篤志家について理解する。
3	社会福祉の歴史的変遷②	防貧対策としての国による福祉の支援方法について、社会資源とは、地域の住民同士の助け合いの歴史的取り組みと現代の取り組みを理解する。
4	社会福祉の理念と課題①	社会福祉とは何か、憲法第25条生存権、ノーマライゼーション・インクルージョンの理念について
5	社会福祉の理念と課題②	ニーズとは何か、ニーズの時代的変化、社会参加について理解する。
6	社会福祉の理念と課題③	自立と依存のバランス、社会福祉における平等な支援のあり方について理解する。
7	子ども家庭支援と社会福祉①	家族の暮らす社会を理解し、社会環境に着目する。社会福祉の支援の視点を理解する。
8	子ども家庭支援と社会福祉②	保育の社会化としての現代の地域子育て支援事業の種類を理解する。合計特殊出生率の変遷を理解する。

9	子ども家庭支援と社会福祉③	子どもの人権擁護として『子どもの権利に関する条約』の理念や『国連子どもの権利委員会』を理解する。
10	子ども家庭支援と社会福祉④	児童虐待防止法、オンブズパーソン、施設入所している子どもの権利擁護について、子どもの権利ノートについて理解する。
11	社会福祉にかかわる法律	日本国憲法第25条生存権、社会福祉の土台となる社会福祉法、福祉六法について理解する。
12	福祉の政策主体	国の組織、地方公共団体の組織と福祉、社会福祉の財源、地域福祉計画、児童福祉施設の設備運営基準、条約等について理解する。
13	福祉を支える法律	健康やケアに関する法律、障害者に関する法律、暴力からの保護に関する法律、支援者に関する法律について理解する。
14	社会福祉施設	社会福祉法による第1種・第2種社会福祉事業について理解する。
15	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習
16	社会保険制度①	介護保険と医療保険について理解する。
17	社会保険制度②	年金保険・雇用保険・労災保険について理解する。
18	社会福祉の専門職	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
19	社会福祉における利用者の保護に関する仕組み	第三者評価事業・施設内での苦情解決の仕組み・その他権利を擁護する仕組みを理解する。
20	社会福祉における相談援助①	相談援助の理論・意義・機能・対象を理解する。
21	社会福祉における相談援助②	事例を通して個人や家族に対しての相談援助の過程を理解する。
22	社会福祉における相談援助③	事例を通してグループや地域への相談援助の過程を理解する。
23	社会福祉の動向と課題①	少子超高齢社会の進行、地域の変化について理解する。
24	社会福祉の動向と課題②	子ども子育て支援新制度を中心とした少子化対策の展開について理解する。
25	その他の施策①	健やか親子21、少子化対策プラスワン、少子化社会対策基本法、次世代育成支援対策推進法などについて理解する。
26	その他の施策②	次世代育成対策推進法における行動計画策定の仕組み、男女共同参画社会と少子化対策としての育児介護休業法、社会手当てについて理解する。
27	共生社会の実現と障害者施策①	高齢社会を支える施策として介護保険法・老人福祉法を理解する。
28	共生社会の実現と障害者施策②	障害者を支える施策として障害者基本法・障害者総合支援法・障害者の権利条約・ 障害者差別解消法の合理的配慮を理解する。
29	他職種との連携とネットワーク	福祉の実施主体・地域住民による活動・専門職との連携を理解する。
30	復習とまとめ	これまでのまとめ、復習

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育者論		
必修選択	必修	（学則表記）	保育者論		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	『保育者論ー主体性のある保育者を目指して』 野津直樹・宮川萬寿美編著		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	・“保育者とは何か”を命題とし、学生一人一人が目指していくべき保育者像を追及し理解する。 ・また実際に保育現場で保育者が働いている様子から伺える様々な葛藤、それを通しての成長の過程を知る。
到達目標	①保育者の役割と倫理について理解する。 ②保育士の制度的な位置づけを理解する。 ③保育士の専門性について考察し、理解する。 ④保育者の連携・協働について理解する。 ⑤保育者の資質向上とキャリア形成について理解し説明する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	大路 恵	実務経験	○
実務内容	保育園にて主任・子育て支援業務・新人研修等を担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	保育者とは	現在持っている保育者のイメージについて　　保育者の法的根拠について学ぶ
2	幼稚園教諭とは	幼稚園教諭の役割を学ぶ
3	保育士とは	保育士の役割を学ぶ
4	保育教諭および施設で働く保育者とは	保育教諭・施設で働く保育者の役割を学ぶ
5	保育者に求められる倫理	子どもの最善の利益とは何かについて学ぶ
6	これまでのまとめ	今までの復習を行う
7	保育者の制度的位置付け	保育者の法的な定義について学ぶ

8	保育者の資質・能力	保育者の専門性を学ぶ
9	養護及び教育の一体的展開	養護と教育を一体的に行うことについて学ぶ
10	保育の質の向上	保育の質の向上について学ぶ
11	これまでのまとめ	今までの復習を行う
12	計画に基づく保育の実践と省察・評価	PDCAサイクルについて学ぶ
13	園内の保育者チーム及び家庭との連携	他の教職員や家庭との連携について学ぶ
14	専門機関や地域との連携	様々な専門機関等について学ぶ
15	保育者の葛藤と成長	保育者として葛藤するということを学ぶ
16	保育の現代的な問題①	保育者としての心の持ち様、必要なスキルについて学ぶ
17	保育を目指すあなたへ	これまでの保育者論の学びを振りかえる
18	これまでのまとめ	各回の内容振り返り、理解度確認
19	これまでのまとめ	総復習
20	保育者の専門性①	これまでの保育者論の学びを振り返る
21	保育者の専門性②	これまでの保育者論の学びを振り返る
22	これまでのまとめ	まとめ
23	実践演習①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
24	実践演習②	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しを増やす
25	実践のまとめ①	豊かな保育実践に繋げるための保育の引き出しをまとめる
26	実践のまとめ②	保育の引き出しを描く
27	保育者論のまとめ①	目指す保育者像を描く①
28	保育者論のまとめ②	目指す保育者像を描く②
29	保育者論のまとめ③	目指す保育者像のレポート発表
30	年間総まとめ	まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	保育の心理学		
必修選択	選択	（学則表記）	保育の心理学		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	実践につながる新しい保育の心理学		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場で関わる年齢期に応じた子どもの心理と身体のあり方、およびその成長・発達について学んでいく
到達目標	・子どもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となる子どもへの理解を深めることができる ・乳幼児期の子どもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解できる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する
担当教員	梅木 千幸
実務経験	○
実務内容	中等教育学校にてスクールカウンセラーとして勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について　　保育の心理学とは
2	子どもの発達を理解することの意義	発達心理学とは　　現代社会が抱える子どもの問題
3	子どもの発達と環境	各発達理論・説について
4	子ども観・保育観と発達理論からの視点	子ども観と保育観　　ボウルビィの理論とハーロウの実験
5	社会的情動	基本的信頼感の形成　　愛着理論
6	身体能力と運動機能の発達	発育・発達の原理原則
7	認知の発達	ピアジェの発達理論
8	言語の発達	言語・コミュニケーションの発達
9	アセスメント	障害と各種検査

10	発達段階　①	0・1・2歳の発達
11	発達段階　②	3・4・5歳の発達
12	発達段階　③	学童期の発達
13	発達段階　④総まとめ　①	青年期の発達
14	発達段階　⑤	成人期から老年期までの発達
15	総まとめ　①	振り返り　解説
16	乳幼児期の学びに関する理論	学習理論
17	遊びの理論　①	乳幼児期の学び(遊び)の過程と特性
18	遊びの理論　②	乳幼児期の学び（遊び）を支える保育
19	子どもの発達と遊びの関係　①	遊びと生活習慣形成
20	子どもの発達と遊びの関係　②	幼児教育において育みたい資質・能力の整理
21	学習心理学　①	行動を身につけるということ　①
22	学習心理学　②	行動を身につけるということ　②
23	障害のある子どもの保育　①	サポートの必要な子どもについて　①
24	障害のある子どもの保育　②	サポートの必要な子どもについて　②
25	障害のある子どもの保育　③	サポートの必要な子どもについて　③
26	生涯発達を見据えた発達支援	生涯発達とは
27	各発達段階における対応　①	発達を踏まえた声かけを考える　①
28	各発達段階における対応　②	発達を踏まえた声かけを考える　②
29	発達を支援するということ	保育者は何のために子ども支援を行うのか
30	総まとめ　②	振り返り　解説

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	子どもの保健		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの保健		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	子どもの保健と安全		出版社	教育情報出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	子どもの特徴、発育・発達の様子を知る。子どもに多い疾患や事故に対する予防法・予防策・望ましい安心安全な環境づくりについて学ぶ。
到達目標	1．子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2．子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3．子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4．子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	植村 梓	実務経験	○
実務内容	小学校にて養護教諭として勤務・専門大学校にて医務室で勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	1節　保健活動の意義と目的
2	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	2節　健康の概念と健康指数
3	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	3節　現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4	1章　子どもの心身の健康と保健の意義	4節　地域における保健活動と子どもの虐待防止
5	2章　子どもの保健の諸統計	1節　子どもの保健と人口統計
6	2章　子どもの保健の諸統計	2節　少子化時代における子どもの保健と出生率
7	2章　子どもの保健の諸統計	3節　母子保健（周産期）と、子どもの保健と死亡率
8	2章　子どもの保健の諸統計	4節　子どもの年齢別にみた事故・けが・病気の予防
9	3章　子どもの心身の発達とその評価	1節　発達の順序と連続性 2節　発達の臨界期と基本的方向性

10	3章　子どもの心身の発達とその評価	3節　子どもの精神発達
11	3章　子どもの心身の発達とその評価	4節　子どもの心身の健康状態とその把握
12	4章　子どもの生理機能の発達	1節　生体の成り立とホメオスタシス 2節　子どもの呼吸と呼吸数
13	4章　子どもの生理機能の発達	3節　乳幼児突然死症候群（SIDS）
14	4章　子どもの生理機能の発達	4節　子どもの体温
15	4章　子どもの生理機能の発達	5節　子どもの血液・循環・脈拍数
16	4章　子どもの生理機能の発達	6節　子どもの消化吸収と排泄
17	4章　子どもの生理機能の発達	7節　子どもの睡眠とホルモン
18	5章　子どもの脳神経系の発達	1節　子どもの脳神経系のしくみ 2節　神経細胞と髄鞘化
19	5章　子どもの脳神経系の発達	3節　子どもの脳神経系の発達と反射
20	6章　子どもの運動機能の発達とその評価	1節　子どもの運動機能の発達 2節　運動発達の方向性
21	6章　子どもの運動機能の発達とその評価	3節　子どもの運動発達の評価
22	7章　子どもの感覚の発達とその評価	1節　子どもの視覚の発達
23	7章　子どもの感覚の発達とその評価	2節　子どもの聴覚の発達
24	7章　子どもの感覚の発達とその評価	3節　子どもの味覚・嗅覚・触覚の発達
25	8章　子どもの歯の発達とケア	1節　子どもの乳歯と永久歯の発達 2節　子どもの歯の健康状態
26	8章　子どもの歯の発達とケア	3節　子どもの歯の健康管理
27	９章　子どもの病気と予防・手当	1節　子どもの病気
28	９章　子どもの病気と予防・手当	2節　子どもと先天性異常
29	９章　子どもの病気と予防・手当	3節　子どもと呼吸器の病気
30	９章　子どもの病気と予防・手当	4節　子どもと循環器の病気

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	子どもの食と栄養Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	子どもの食と栄養Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	子どもの食と栄養　改訂第３版		出版社	中山書店	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	小児期の食生活は生涯にわたる健康な生活を送るための基礎となるため、保育者として食を通じた子どもの健全育成に携わる知識を身につける。
到達目標	1.健全な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する。 2.子どもの発育・発達と食生活の関連について理解する。 3.養護及び教育の一体性を踏まえた保育における食育の意義・目的、基本的な考え方、その内容について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	子どもの食と栄養Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	秋本 聡
実務経験	○
実務内容	病院給食に関わる業務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	第1章　子どもの健康と食生活①	乳幼児の食生活の現状
3	第1章　子どもの健康と食生活②	乳幼児の栄養アセスメント
4	第1章　子どもの健康と食生活③	朝食欠食の問題と対応
5	第1章　子どもの健康と食生活④	偏食の弊害と対応
6	第1章　子どもの健康と食生活⑤	噛まない子の問題と対応
7	第1章　子どもの健康と食生活⑥	孤食の弊害と対応
8	第1章　子どもの健康と食生活⑦	世界の子どもたちの食生活
9	まとめ・理解度確認	まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する

10	第2章　栄養・食に関する基本的知識	消化吸収の仕組み
11	第2章　栄養・食に関する基本的知識①	栄養の基礎知識
12	第2章　栄養・食に関する基本的知識②	たんぱく質の代謝と栄養学的意義
13	第2章　栄養・食に関する基本的知識③	糖質の代謝と栄養学的意義
14	第2章　栄養・食に関する基本的知識④	脂質の代謝と栄養学的意義
15	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑤	ビタミンの代謝と栄養学的意義
16	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑥	ミネラルの代謝と栄養学的意義
17	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑦	食物繊維と水分
18	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑧	日本人の食事摂取基準の意義と活用
19	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑨	妊婦・授乳婦の食事摂取基準
20	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑩	乳幼児の食事摂取基準
21	第2章　栄養・食に関する基本的知識⑪	学童・思春期の食事摂取基準
22	まとめ・理解度確認	まとめ・練習問題を実施して理解度を確認する
23	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活①	授乳・離乳の支援ガイド
24	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活②	乳幼児の咀嚼機能の発達と食事提供
25	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活③	乳幼児の味覚機能の発達と食事提供
26	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活④	乳幼児の消化吸収機能の発達と食事提供
27	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活⑤	乳幼児期栄養
28	第3章　子どもの発育・発達と栄養・食生活⑥	学童・思春期の栄養
29	まとめ・理解度確認	まとめ・試験を実施して理解度を確認する
30	総まとめ	試験の振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	健康		
必修選択	選択	（学則表記）	健康		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	『健やかな育ちを支える　領域「健康」』		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	1.幼稚園教育要領・保育所保育指針等における領域「健康」の「ねらい」「内容」について理解する。 2.乳幼児の健康の諸問題について子どもたちが自ら学び、考え、問題解決できるよう生きる力を育む指導のあり方について学ぶ。 3.保育活動における健康教育について学ぶ。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	辻中 実代	実務経験	○
実務内容	幼稚園にて担任業務に従事		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	幼児と健康	幼稚園教育要領等における「健康」のねらいや内容について学ぶ。
3	発育・発達	発育、発達、成長の特徴と違いを理解し説明できるようにする。
4	運動	運動技能の発達過程および運動遊びの意義について理解する。
5	生活習慣	基本的生活習慣とその意義について学ぶ。
6	食育	生涯を健康に過ごすために必要な食育の基本を理解する。

7	幼児の保健	保育現場の保健に関する知識を学ぶ。
8	保育における安全管理	保育現場の安全管理について学ぶ。
9	現代的課題	領域「健康」に関する現代的課題と保育者の役割について学ぶ。
10	振り返り	各回内容の振り返り、理解度確認
11	領域「健康」のねらいと内容①	幼稚園教育要領にある「健康のねらい・内容・内容の取扱い」について理解する。
12	領域「健康」のねらいと内容②	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領にある「健康のねらい及び内容」について理解する。
13	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	幼稚園教育要領にある「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について理解する。
14	前期の振り返り	前期内容のまとめ
15	子どもの発育発達①	乳幼児期を通しての心身の発達について理解する。
16	子どもの発育発達②	乳幼児期を通しての運動能力の発達について理解する。
17	子どもの運動①	運動能力調査に見る子どもの心身の変化について理解する
18	子どもの運動②	運動能力を低下させた原因、最近の子どもたちの現状について理解する。
19	子どもの生活習慣①	基本的生活習慣に関わる子どもの発達について理解する。
20	子どもの生活習慣②	園における基本的生活習慣を促す援助について学ぶ。
21	子どもの生活習慣③	園における基本的生活習慣を促す援助について理解をする。
22	子どもの食育①	子どもの食生活の現状について知る。
23	子どもの食育②	子どもの食育について理解する。
24	子どもの保健①	保育における健康管理の重要性を理解する。
25	子どもの保健②	保育における健康管理の方法を理解する。
26	子どもの安全管理①	園内での事故事例を知り、安全教育について理解する。
27	子どもの安全管理②	園内外での事故や災害事例を知り、安全教育について学ぶ。
28	保育の現代的課題	現代社会における園や保育者に求められることについて理解する。
29	後期の振り返り	後期内容のまとめ
30	1年の振り返り	子どもの健康を支え育む保育者の役割について自身の考えを整理する。

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	人間関係		
必修選択	選択	（学則表記）	人間関係		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	実践につながる新しい保育内容「人間関係」		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児期の人間関係の発達に関する学びを基に、領域「人間関係」のねらい及び内容への理解を深める。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現・人間関係指導法
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	辻中 実代　　実務経験　○
実務内容	幼稚園にて担任業務に従事

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方・到達目標について
2	第1章　子どもを取り巻く現代社会の状況	・第1節　子どもを取り巻く現代的課題と子どもの生活の変化 ・第2節　新しい時代に求められる教育的効果としての非認知能力 ・第3節　領域「人間関係」の成り立ちと目指すもの
3	第2章　領域　「人間関係」	・第1節　0歳児のねらいと内容における「人間関係」 ・第2節　領域「人間関係」における1歳以上3歳未満児のねらいと内容 ・第3節　領域「人間関係」における３歳～5歳のねらいと内容
4	第3章　0歳児における人間関係と援助	・第1節　0歳児の心身の育ちと人間関係 ・第2節　人との関わりを育むあそび
5	第4章　１～2歳児における人間関係と援助	・第1節　１～2歳の心身の育ちと人間関係 ・第2節　人との関わりを楽しむあそび（保育者による支援）
6	第5章　３～5歳児における人間関係と援助	・第1節　３～5歳の心身の育ちと人間関係 ・第2節　人との関わりを育むための子ども理解 ・第3節　幼児期までに育ってほしい姿と小学校への接続
7	第6章　人との関わりが難しい子どもへの支援	・第1節　集団生活に困難が伴う子どもとは ・第2節　インクルーシブな保育に向けて

8	第7章　子育て支援における人との関わり	・第1節　子育て支援とは ・第2節　園における保護者支援の種類と関わり ・第3節　子育て支援センターにおける「おもちゃの広場」の実践例
9	第8章　保育における現代的課題	・第1節　ICT技術の発展と幼児期の影響 ・第2節　外国にルーツを持つ子どもや家族との関わり
10	振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	振り返り	総復習
12	まとめ①	・子どもを取り巻く現代社会の状況 ・領域　「人間関係」
13	まとめ②	・0歳児における人間関係と援助 ・１～2歳児における人間関係と援助
14	まとめ③	・３～5歳児における人間関係と援助 ・人との関わりが難しい子どもへの支援
15	まとめ④	・子育て支援における人との関わり ・保育における現代的課題
16	子どもを取り巻く現代社会の状況	ECECの質の向上、主体性について学ぶ①
17	子どもを取り巻く現代社会の状況	ECECの質の向上、主体性について学ぶ②
18	領域　「人間関係」	人と関わる力の基礎を培うには、どのような働きかけが基盤になるか学ぶ①
19	領域　「人間関係」	人と関わる力の基礎を培うには、どのような働きかけが基盤になるか学ぶ②
20	0歳児における人間関係と援助	保育所保育指針から乳児期の「人間関係」について学ぶ①
21	0歳児における人間関係と援助	保育所保育指針から乳児期の「人間関係」について学ぶ②
22	１～2歳児における人間関係と援助	１～2歳の心の発達にみられる「自己主張」にはどのように対応していくとよいか学ぶ①
23	１～2歳児における人間関係と援助	１～2歳の心の発達にみられる「自己主張」にはどのように対応していくとよいか学ぶ②
24	３～5歳児における人間関係と援助	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる子どもの育ちを学ぶ①
25	３～5歳児における人間関係と援助	「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」につながる子どもの育ちを学ぶ②
26	人との関わりが難しい子どもへの支援	インクルーシブな保育実践にはどのような視点が必要か学ぶ。
27	子育て支援における人との関わり	地域にどのような子育て支援の形があるか学ぶ。
28	保育における現代的課題	保育や育児に関するスマートフォンのアプリケーションについて学ぶ。
29	まとめ	授業第16回～第28回のまとめ
30	「人間関係」総まとめ	まとめと振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	環境		
必修選択	選択	（学則表記）	環境		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	[新版]保育内容「環境」		出版社	大学図書出版	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	領域「環境」における内容を基本として、子どもが環境とかかわる力を培うことができるようなより具体的な指導法とはどういったものかを考える。指導計画を実際に作成し、それを実践する中で子どもへの援助の在り方等を学ぶ。模擬保育を通して実践的に学ぶ。
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	大路 恵	実務経験	○
実務内容	保育園にて主任・子育て支援業務・新人研修等を担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 領域「環境」とは	領域「環境」について 授業の流れ・到達目標・評価などについて
2	保育における環境	園のあり方、保育における環境の基本的な考え方について 幼稚園教育要領と保育所保育指針・領域「環境」の「ねらい」「内容」について
3	子どもの生活と保育環境	人的環境・物的環境・自然環境・社会環境という環境の区分について あらゆる子どもにとって配慮された環境について
4	物的環境との関わり	物的環境について リスクとハザードについて
5	自然環境との関わり	自然環境（四季、命の移り変わり、虫・小動物等苦手な生き物）について 自然環境を守るという姿勢について
6	子どもを取り巻く社会環境	地域の拠点としての園と地域社会とのつながりについて 地域資源について

7	遊びを通して関わる環境 （数量・図形・文字・標識）	遊びを通して関わる環境として、数量・図形・文字・標識について 数量・図形・文字・標識に関わる遊びについて 生活の中で数量・図形・文字・標識に出会う機会について
8	遊びを通して関わる環境 （科学との出会い）	遊びを通して関わる環境としての科学について 科学と出会えることができる遊びについて 生活の中で科学と出会う機会について
9	遊びを通して関わる環境 （子どもを取り巻く情報メディア）	遊びを通して関わる環境としての情報メディアについて 情報メディアを活用した遊びについて 生活の中で情報メディアの活用について
10	行事を通して関わる環境	四季の変化と暦・年中行事・節句について 地域の行事や国旗について
11	振り返り	総復習
12	領域「環境」を生かす幼稚園教諭・保育士の役割	領域「環境」を生かす幼稚園教諭や保育士の役割について
13	園の環境構成	乳児・幼児の環境の特性について
14	実践編：飼育・栽培	飼育・栽培の意義と保育者の関わりについて
15	実践編：飼育・栽培	飼育・栽培の事例、実際の方法について
16	実践編：シャボン玉	シャボン玉遊びの際の安全管理と安全な遊び方について
17	実践編：泥団子作り	泥団子作りの魅力について
18	実践編：年間行事	園生活の年間行事について
19	応用編：ICTの活用	子どもを取り巻く情報メディア、テクノロジーと子どもたちをふまえたICTの活用について
20		
21		
22	応用編：環境教育指導資料小学校編	環境教育について 環境教育を例に小学校との接続について
23		
24	指導案作成・実践	飼育栽培の指導案について
25		
26		
27	園生活の年間行事	園生活の年間行事について
28		
29		
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	言葉		
必修選択	選択	（学則表記）	言葉		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	保育学生のための「幼児と言葉」「言葉指導法」		出版社	ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育において育みたい幼児の資質・能力について学ぶとともに、領域「言葉」のねらい及びないようについての理解を深める。また、言葉の発達に即して、言葉遊びや児童文化財を適切に活用する技術を体験的に学び、保育を構想する力を身につける。		
到達目標	１．保育所保育指針における「保育の目標」「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「保育の内容」の関連を理解する。 ２．保育所保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。 ３．子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育の内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育の内容の基本的な考え方を、子どもの発達や実態に即した具体的な保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）につなげて理解する。 ４．保育の多様な展開について具体的に理解する。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目	健康・人間関係・言葉・表現		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	西元 咲文	実務経験	○
実務内容	公立幼稚園にて幼稚園教諭として勤務。海外の日本人学校幼稚部・補習授業校にて教諭として勤務。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ・到達目標・評価などについて説明。 言葉の必要性について考える。
2	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
3	乳幼児期の言葉の獲得	乳幼児は自ら言葉を獲得する力を持って生まれてくることを知る。乳幼児が言葉と言葉の仕組みをどのようにして見つけているのか、その概略を理解する。
4	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
5	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
6	児童文化財①〔おはなし〕	保育における児童文化財活用の意義を理解するとともに、「おはなし」の活用方法を身につける。
7	児童文化財②〔紙芝居〕	日本独特の文化財である紙芝居の歴史と特性を知るとともに、紙芝居の演じ方のポイントを押さえて実演できるようになる。

8	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。
9	児童文化財④〔絵本と子ども〕	効果的な「絵本の読み聞かせ」方法を身につける。絵本の中に描かれた子どもについて考察する。
10	学びの振り返り	各回の内容振り返り、理解度確認
11	学びの振り返り	総復習
12	言葉の豊かさ	日本語の特徴を理解するとともに、日本語の美しさ、豊かさ、美しさを実感する。
13	実践　言葉遊び	言葉遊び①　言葉を集める遊び、言葉を感じる遊び
14	実践　言葉遊び	言葉遊び②　言葉を発信する遊び
15	総まとめ①	前期の振り返りとまとめ
16	人間と言葉	言葉の不思議で奥深い側面について考え、「話し言葉」と「書き言葉」の主な機能について理解する。
17	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
18	言葉遊び	言葉遊びの歴史や保育における位置づけ、発達段階に応じた遊び方を知る。言葉遊びを体験し、楽しさを実感するとともに、活用法について考える。
19	言葉遊び	
20	言葉遊び	
21	児童文化財③〔絵本とは何か〕	絵本各部の名称や絵本のジャンルを知るとともに、絵と言葉が協力する絵本の特性を理解する。
22	児童文化財③〔絵本とは何か〕	
23	学びの振り返り	総復習
24	実践　児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した指導案作成
25	実践　児童文化財を活用した保育	
26	実践　児童文化財を活用した保育	
27	実践　児童文化財を活用した保育	児童文化財を活用した保育実践
28	実践　児童文化財を活用した保育	
29	実践　児童文化財を活用した保育	
30	総まとめ②	１年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	音楽表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程 子どものための音楽表現技術 -感性と実践力豊かな保育者へ 保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育現場で必要な実践的なピアノ演奏の基礎技術を身に付ける		
到達目標	・自らの力で読譜ができ、演奏ができる力を身に付ける。 ・生活のうたの両手奏ができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	小田原短大関連科目・保育士		
関連科目	造形表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・音楽表現Ⅱ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	小林 未季　他3名	実務経験	○
実務内容	ピアノ・楽典・ソルフェージュ指導、オルガン演奏、児童合唱団伴奏		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ピアノを弾くための基礎知識	授業の流れ、到達目標、評価について 楽譜の基本　ピアノを弾く姿勢　指番号とその意味
2	ハ長調	ハ長調の曲練習
3	ハ長調	ハ長調の曲練習
4	ハ長調	ハ長調の曲練習
5	成果発表①	ハ長調の曲演奏
6	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
7	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
8	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習
9	ハ長調とその他の長調	ハ長調とその他の長調の練習

10	成果発表②	ハ長調とその他の長調の曲発表
11	色々な長調	色々な長調の曲練習
12	色々な長調	色々な長調の曲練習
13	色々な長調	色々な長調の曲練習
14	色々な長調	色々な長調の曲練習
15	成果発表③	へ長調、ト長調の曲発表 前期の振り返り
16	生活のうた こどものうた	「おはよう」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
17	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
18	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
19	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
20	成果発表④	「おはよう」演奏発表
21	生活のうた こどものうた	「おかえりのうた」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
22	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
23	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
24	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
25	成果発表⑤	「おかえりのうた」演奏発表
26	生活のうた こどものうた	「おべんとう」導入 各自のレベルに応じて選曲し練習
27	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
28	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
29	こどものうた	各自のレベルに応じて選曲し練習
30	成果発表⑥	「おべんとう」演奏発表 一年の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	製作表現		
必修選択	選択	（学則表記）	製作表現		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	生活事例からはじめる造形表現		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	①子どもたちの感性や創造性を豊かにする様々な製作表現方法を理解する ②製作表現活動に必要な知識技術と保育への活用法を身につける		
到達目標	①道具や素材を使って、自分で考え、創意工夫しながら積極的に取り組むことができる ②子どもの発達に合わせた製作表現活動の指導計画を立てることができる		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目		
関連科目	音楽表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・保育製作Ⅰ・保育製作Ⅱ・保育製作Ⅲ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山口 由紀子	実務経験	○
実務内容	保育園・幼稚園（子育て支援）・こども園にて絵画造形講師として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション 第1講幼児期の造形表現について	授業内容、到達目標、評価、使用教材について理解する 造形の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する
2	第1講幼児期の造形表現について	造形の意義と幼児期の造形に関する発達を理解する
3	第2講平面表現① 教科書P8～51	造形で多く使われる平面の素材である絵の具や描画材の性質や特性を学ぶ 平面表現における素材の活用法を知り、応用する術を学ぶ
4	第2講平面表現① 教科書P8～51	平面素材の種類や表現方法を知り、保育現場での活用法を学ぶ
5	第3講平面表現② 教科書P8～51	平面表現から、版画を応用した表現方法を知る 幼児造形における版画の活用法を学ぶ
6	第3講平面表現② 教科書P8～51	版画（転写）の技法を知り、保育現場での活用法を学ぶ
7	第4講立体表現① 教科書P53～81	立体素材の代表である粘土の意義を学ぶ 粘土の種類と特性を知り、保育現場での活用方法を学ぶ
8	第5講立体表現② 教科書P53～81	立体素材の木や紙の特徴を知り、造形への活用法を学ぶ 立体素材を扱うための道具の使用方法を学ぶ

9	第5講立体表現② 教科書P71	新聞紙を使った造形遊びを考える
10	第5講立体表現② 教科書P53～81	立体素材を扱うための道具や素材の使用方法を知り、保育現場での円滑な活動への促しを学ぶ
11	第6講表現の原理（色彩）	造形の基礎となる表現の原理である色彩の基礎を学ぶ 色彩の原理や混色、色の対比を習得する
12	第6講表現の原理（色彩）	カラーチャートを作成する
13	第7講協同しての表現	造形における協同での作品制作の在り方を学ぶ
14	第7講協同しての表現	見立て活動の理解を深める
15	第8講保育での模擬保育 教科書P109～114	実習を行うにあたり、造形活動を念頭に置いた指導計画作成の手順を学ぶ
16	第8講保育での模擬保育 教科書P109～114	各年齢の発達過程を理解し、子どもの実態に即した指導計画の作成方法を学ぶ 準備から片付けまでの一貫した流れを捉えた指導計画を作成し、実践する術を学ぶ
17	第8講保育での模擬保育 教科書P109～114	4歳児クラス対象の製作を主活動とする指導案を作成する
18	第8講保育での模擬保育 教科書P109～114	4歳児クラス対象の製作を主活動とする指導案を作成する
19	まとめと確認	これまでの学びの確認を行う
20	【製作表現の実践】 平面表現製作	身近なもを使った作品を作る
21	【製作表現の実践】 平面表現製作	身近なもを使った作品を作る
22	【製作表現の実践】 平面表現製作	身近なもを使った作品を作る
23	製作教材研究	色々な道具を特徴と使い方、表現方法を理解する
24	製作教材研究	色々な道具を特徴と使い方、表現方法を理解する
25	製作教材研究	色々な道具を特徴と使い方、表現方法を理解する
26	【製作表現の実践】 立体表現活動	演じることや遊ぶことに役立つ作品を作る
27	【製作表現の実践】 立体表現活動	演じることや遊ぶことに役立つ作品を作る
28	【製作表現の実践】 立体表現活動	演じることや遊ぶことに役立つ作品を作る
29	【製作表現の実践】 立体表現活動	演じることや遊ぶことに役立つ作品を作る
30	まとめ	製作表現の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	保育製作Ⅰ		
必修選択	必修	（学則表記）	保育製作Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	生活事例からはじめる造形表現		出版社	青踏社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	①保育者として必要な製作表現に関わる知識と技術を身に着ける ②子どもたちに最適な児童文化財になるよう工夫し、留意点や遊びへの展開を考える力をつける ③子どもたちの前で表現する技術を身に着ける
到達目標	①必要な材料を選び、子どもたちに配慮した作品を丁寧に作ることができる ②安全に留意して子どもたちが興味を持てる作品を作り、保育を計画することができる ③作ったものを使い、表情や声、動きに気を付けながら表現することができる
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、 総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・身体表現Ⅰ・言語表現・製作表現、保育製作Ⅱ、保育製作Ⅲ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	田中 友梨　　実務経験　○
実務内容	幼稚園で10年間担任として勤務

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業内容、到達目標、評価、教材、保育現場における造形表現の位置づけと製作活動の大切さを学ぶ 子どもたちの気持ちを想像し、自分で考え工夫してペープサートを1つ作る
2	平面表現/教科書P8～51 表現技法	絵の具とクレヨンを使った技法の実践 ドリッピング、フロッタージュ、バチック、スクラッチ、吹き流しなど
3	平面表現/教科書P8～51 表現技法	版画（転写）の技法を学ぶ デカルコマニー、スタンピングなど
4	立体表現/教科書P53～81 表現技法	感触と可塑性を体験する 小麦粉粘土、油粘土など
5	平面表現/教科書P43 表現技法	作品の保育現場での活用法を学ぶ コラージュ①
6	平面表現/教科書P43 表現技法	作品の保育現場での活用法を学ぶ コラージュ②
7	平面表現/教科書P82 児童文化財①	製作に必要な道具の使い方や留意点を理解する 保育現場でのペープサートの活用方法を理解し、子どもたちが興味を持てるペープサートを考えて作る
8	平面表現/教科書P82 児童文化財①	丁寧にペープサートを作る

9	平面表現/教科書P82 児童文化財①	丁寧にペープサートを作り、その実践の仕方を学ぶ
10	製作活動①	4歳児の子どもたちが作って遊べる製作と実践
11	製作活動①	4歳児の子どもたちが作って遊べる製作と実践
12	製作活動①	4歳児の子どもたちが作って遊べる製作と実践
13	平面表現 児童文化財②	保育活動で使えるシルエットクイズカードを作る
14	平面表現 児童文化財②	保育活動で使えるシルエットクイズカードを作る
15	平面表現 児童文化財②	保育活動で使えるシルエットクイズカードを作る
16	平面表現 児童文化財②	保育活動で使えるシルエットクイズカードを作る
17	平面表現 児童文化財②	保育活動で使えるシルエットクイズカードを作り、グループで発表する
18	製作活動②	5歳の子どもたちへの製作指導を考える
19	製作活動②	5歳の子どもたちへの製作指導を考える
20	製作活動②	5歳の子どもたちへの製作指導を考える
21	製作活動②	5歳の子どもたちへの製作指導を考え実践する
22	立体表現 児童文化財③	手袋シアターの生かし方を理解し、作成する
23	立体表現 児童文化財③	手袋シアターを作る
24	立体表現 児童文化財③	手袋シアターを作る
25	立体表現 児童文化財③	手袋シアターを作る
26	立体表現 児童文化財③	手袋シアターを作り、表現しあう
27	製作活動③	製作のまとめ
28	製作活動③	製作のまとめ
29	製作活動③	製作のまとめ
30	製作活動③	製作のまとめと一年間の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	身体表現Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	身体表現Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	幼児期に必要な運動プログラムを実践し、指導方法を学ぶ。
到達目標	こどもが幼児期に感じるであろう運動の楽しさや難しさを感じ、こどもに分かりやすい指導ができる。 活動の際に道具の正しい使用方法を述べる事ができる。 運動遊びの指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士　こども総合学科/こども心理学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	音楽表現Ⅰ・造形表現Ⅰ・言語表現・身体表現Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	小谷 幸平
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業のねらい、到達目標について、授業内容の説明
2	体ほぐし運動	体ほぐし運動、準備運動の実践
3	レクリエーション（未満児）	未満児を対象とした幼児レクリエーションの実践
4	レクリエーション（以上児）	以上児を対象とした幼児レクリエーションの実践
5	レクリエーション指導準備	対象をグループで分け、指導実践の準備を行う
6	レクリエーション指導実践	対象をグループで分け、指導実践を行う
7	ボール遊び実践	ボールを使用した運動遊びの実践
8	ボール遊び指導準備	ボールを使用した運動遊びの指導準備
9	ボール遊び指導実践	ボールを使用した運動遊びの指導実践

10	ボール遊び指導実践	ボールを使用した運動遊びの指導実践
11	リズム運動遊び実践	音楽やリズムを使った運動遊びを実践
12	リズム運動遊び指導準備	リズム運動遊びの指導準備
13	リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践
14	リズム運動遊び指導実践	リズム運動遊びの指導実践
15	前期まとめ	前期授業の振り返り
16	後期オリエンテーション	後期の授業内容、ねらい、到達目標の確認
17	縄遊びの理解	幼児の発育に応じた縄の使用方法・声かけの仕方・指導方法
18	縄遊び（長縄）	長縄を使用した遊びを経験し、指導法を学ぶ
19	縄遊び（短縄）	短縄を使用した遊びを経験し、指導法を学ぶ
20	マット運動	マット運動等の導入方法と安全管理、声かけ、マット遊びと補助方法
21	跳び箱運動	跳び箱運動等の導入方法と安全管理、声かけ、跳び箱遊びと補助方法
22	鉄棒運動	鉄棒運動等の導入方法と安全管理、声かけ、鉄棒遊びと補助方法
23	サーキット遊び（考案）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの考案
24	サーキット遊び（指導）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの指導実践
25	サーキット遊び（指導）	縄跳び、マット、跳び箱、鉄棒を使ったサーキット遊びの指導実践
26	運動遊びの指導（考案）	運動遊び指導実践に向けた内容考案
27	運動遊びの指導（準備）	運動遊び指導実践に向けた準備
28	運動遊びの指導（指導）	運動遊び指導実践
29	運動遊びの指導（指導）	運動遊び指導実践
30	総まとめ	振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	講義	科目名	乳児保育Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	乳児保育Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	コンパス　乳児保育		出版社	建帛社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	乳児保育の意義、目的、歴史的変遷、役割などを現状と課題を含めて学ぶ。保育所や乳児院等多様な保育の場を知り、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容を理解し、その運営体制や職員間の連携、家庭、地域との連携等ついて学ぶ。
到達目標	１、乳児保育の意義・目的と歴史的変遷及び役割について理解する。 ２、保育所、乳児院等多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する。 ３、3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育の内容と運営体制について理解する。 ４、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。 ※「乳児保育」とは3歳未満児を念頭においた保育を示す。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育士
関連科目	乳児保育Ⅱ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	川戸 良子　　実務経験　○
実務内容	幼稚園・保育園にて勤務　神戸市子育て支援子育てサポーター業務に従事

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	乳児保育とは	乳児保育を学ぶ目的・乳児保育の課題
2	乳児保育とは	保育所保育指針からみる乳児保育
3	乳児保育の基本	乳児保育の理念の歴史的変遷
4	乳児保育の基本	現代の乳児保育の社会的役割
5	乳児保育の制度と課題 乳児保育における連携	多様な子育て支援政策と乳児が過ごす多様な場 子育て支援のシステムの背景とそのシステム
6		
7		
8	第１回目復習	これまでの復習

9	１歳未満児の発達過程からみる保育内容①	0～6か月未満児への望ましい支援と援助方法
10	１歳未満児の発達過程からみる保育内容②	6か月以上1歳児未満児への望ましい支援と援助方法
11	１歳以上３歳未満児の発達過程からみる保育内容①	1歳児以上2歳児未満児への望ましい支援と援助方法
12	１歳以上３歳未満児の発達過程からみる保育内容②	2歳児以上3歳児未満児への望ましい支援と援助方法
13	第２回復習	これまでの復習
14	基本的生活習慣の獲得①	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （睡眠）
15	基本的生活習慣の獲得②	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （排泄）
16	基本的生活習慣の獲得③	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （着脱・清潔）
17	基本的生活習慣の獲得④	乳児保育における基本的生活習慣の自立に向けた支援と援助方法 （食事）
18	食事の計画、提供及び評価・改善①	冷凍・冷蔵母乳と食物アレルギー
19	食事の計画、提供及び評価・改善②	保育室での配慮
20	第3回復習	これまでの復習
21	乳児保育の計画と記録①	指導計画の理解
22	乳児保育の計画と記録②	指導計画の作成について
23	乳児保育の計画と記録③	個別配慮と環境・職員間の協働
24	乳児保育における連携	子育て支援の連携法
25	子育てをめぐる家族の権利と責任①	児童福祉法・教育基本法からの検討・演習
26	子育てをめぐる家族の権利と責任②	児童の権利に関する条約からの検討・演習
27	第4回目復習	これまでの復習
28	演習	乳児にも使える玩具作り
29	発表	乳児にも使える玩具作り
30	総まとめ	授業のまとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	障害児保育		
必修選択	選択	（学則表記）	障害児保育		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	『アクティブ・ラーニング対応 エピソードから読み解く障害児保育』 『特別支援教育・保育概論 -特別な配慮を要する子どもの理解と支援』		出版社	萌文書林	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	障害児等の理解と保育における援助、指導計画及び個別の支援計画の作成、生活や遊びの環境、子ども同士の関係性、職員間の連携・協働について学ぶとともに、家庭・関係機関及び小学校等との連携・協働について理解し、保健・医療・福祉・教育の現状と課題を知る。
到達目標	①障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解する。 ②個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解する。 ③障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解する。 ④障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関とその連携・協働について理解する。 ⑤障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育に関する現状と課題について理解する。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士・小田原短期大学関連科目　こども総合学科:小田原短期大学関連科目
関連科目	
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。
担当教員	井出 沙里
実務経験	
実務内容	

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念①	オリエンテーション／障害の概念と障害児の教育・保育の歴史的変遷 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組み
2	特別の支援を必要とする子どもの教育と障害児保育を支える理念②	障害のある子どもの地域社会への参加・包摂及び合理的配慮の理解 障害児保育の基本
3	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援①	肢体不自由児の理解と支援 知的障害児の理解と支援
4	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援②	視覚障害児・聴覚障害児の理解と支援 ことばの発達に障害のある子どもへの理解と支援
5	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援③	重症心身障害児・医療的ケア児の理解と支援 病弱児の理解と支援
6	障害児等の理解と教育・保育における発達の支援④	発達障害児(ADHD, SLD)の理解と支援 発達障害児(ASD)の理解と支援

7	障害児等の理会と教育・保育における発達の支援⑤	その他の特別な配慮を要する子どもの理解と支援
8	幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際①	全体的な計画及び指導計画、個別の支援計画の作成
9	幼稚園及び保育所等における障害児その他の特別な配慮を要する子どもの教育・保育の実際②	個々の発達を促す生活や遊びの環境／子ども同士の関わりと育ち合い／ 障害児の教育・保育における子どもの健康と安全／職員間の連携・協働
10	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援方法	「通級による指導」及び「自立活動」の教育課程上の位置づけと内容／「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」を作成する意義と方法／特別支援教育コーディネーター、関係機関、家庭と連携しながらの支援体制の構築
11	家庭及び自治体・関係機関との連携	保護者や家族に対する理解と支援／保護者間の交流や支え合いの意義とその支援／障害児支援の制度の理解と地域における自治体や関係機関の連携・協働／小学校等との連携
12	障害その他の特別な配慮を要する子どもの保育にかかわる現状と課題	保健・医療における現状と課題／福祉・教育における現状と課題／支援の場の広がりとつながり／障害者の自立と就労支援
13	前期のまとめ①	第1回から第12回までの振り返り①
14	前期のまとめ②	第1回から第12回までの振り返り②
15	前期のまとめ③	第1回から第12回までの振り返り③
16	エピソードから読み解く障害児保育①	0歳児の発達（基礎理論）
17	エピソードから読み解く障害児保育②	0歳児の発達（ケーススタディ）
18	エピソードから読み解く障害児保育③	1歳児の発達（基礎理論）
19	エピソードから読み解く障害児保育④	1歳児の発達（ケーススタディ）
20	エピソードから読み解く障害児保育⑤	2歳児の発達（基礎理論）
21	エピソードから読み解く障害児保育⑥	2歳児の発達（ケーススタディ）
22	エピソードから読み解く障害児保育⑦	3歳児の発達（基礎理論）
23	エピソードから読み解く障害児保育⑧	3歳児の発達（ケーススタディ）
24	エピソードから読み解く障害児保育⑨	4歳児の発達（基礎理論）
25	エピソードから読み解く障害児保育⑩	4歳児の発達（ケーススタディ）
26	エピソードから読み解く障害児保育⑪	5歳児の発達（基礎理論）
27	エピソードから読み解く障害児保育⑫	5歳児の発達（ケーススタディ）
28	エピソードから読み解く障害児保育⑬	6歳児の発達（基礎理論／ケーススタディ）
29	後期のまとめ①	第16回から第28回までの振り返り①
30	後半のまとめ②	第16回から第28回までの振り返り②

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	地域支援実践Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	地域支援実践Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	30
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	地域社会において福祉・教育・保育等の領域に関わるボランティア活動に参加することを通して、多様な能力の育成、社会性の涵養ならびに実践による知識技術の習得などを目指す。		
到達目標	①専門分野を活かして地域社会に貢献する。 ②保育実習の事前・事後の学習に役立てる。 ③進路選択の一助とする。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格	保育科:保育士		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山口 紗季　　他1名	実務経験	
実務内容			

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	音楽表現Ⅱ		
必修選択	選択	（学則表記）	音楽表現Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	幼稚園教諭・保育士養成課程　子どものための音楽表現技術 ー感性と実践力豊かな保育士へー 保育のためのやさしい子どもの歌―弾き歌い・合奏・連弾・合唱		出版社	萌文書林 ミネルヴァ書房	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育者に必要な音楽の知識を身に付け、演奏や子どもへの音楽表現遊びに役立てる
到達目標	・自分の力で読譜ができる。 ・コードネームによる簡易伴奏付けについて理解する。 ・保育現場での楽器活動の基礎指導ができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	小田原短大関連科目・保育士
関連科目	音楽表現Ⅰ・音楽表現Ⅲ・音楽表現Ⅳ・音楽表現Ⅴ・音楽表現Ⅵ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	土肥 隆弘	実務経験	○
実務内容	音楽事務所ピアニスト、リトミック教室伴奏ピアニスト・講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業ガイダンス
2	保育者に必要な音楽の基礎知識	音楽と音、楽譜の仕組み、音名
3	保育者に必要な音楽の基礎知識	小節、楽曲の形式
4	保育者に必要な音楽の基礎知識	音符と休符
5	保育者に必要な音楽の基礎知識	拍子とリズム①
6	保育者に必要な音楽の基礎知識	拍子とリズム②
7	保育者に必要な音楽の基礎知識	奏法を表す記号と音楽表現を表す楽語
8	保育者に必要な音楽の基礎知識	子どもと楽しむ打楽器①　～楽器の特徴と奏法～タンブリン・カスタネット
9	保育者に必要な音楽の基礎知識	子どもと楽しむ打楽器②　～楽器の特徴と奏法～鈴・トライアングル

10	保育者に必要な音楽の基礎知識	音程①
11	保育者に必要な音楽の基礎知識	音程②
12	わらべうた	わらべうた遊びの実践・わらべうたの特徴の理解
13	幼児の歌唱と歌唱活動	初めてのうたの歌唱活動の支援
14	リトミック	リトミックの教育目的・活動方法・遊び方の留意点
15	拍子を用いたリトミック	拍子を用いたリトミックの実践とその理解
16	オルフの音楽教育	日常の音を聴く遊び・ボディーパーカッション オルフの音楽教育
17	音楽遊びの指導計画	音楽遊びの指導計画の概要と作成方法
18	低年齢児を対象とした楽器遊びの立案	2・3歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践
19	4・5歳児を対象とした楽器遊びの立案	4・5歳児を対象とした音楽遊び計画案の理解と音楽遊びの実践
20	振り返りと実践	第12回ー19回内容の振り返りと実践
21	振り返りと実践	第12回ー19回内容の振り返りと実践
22	振り返りと実践	第12回ー19回内容の振り返りと実践
23	振り返りと実践	第12回ー19回内容の振り返りと実践
24	振り返りと実践	第12回ー19回内容の振り返りと実践
25	簡易伴奏法	音階と調性①
26	簡易伴奏法	音階と調性②
27	簡易伴奏法	和音とコードネーム①
28	簡易伴奏法	和音とコードネーム②
29	簡易伴奏法	ルート音による伴奏付け、コードによる伴奏付け
30	総まとめ	一年間の総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	こどものうたⅠ		
必修選択	選択	（学則表記）	こどものうたⅠ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	30
使用教材	こどものうた200　/　続こどものうた200　/ 保育で役立つ！０～5歳児の手あそび・うたあそび		出版社	チャイルド本社 ナツメ社	

科目の基礎情報②	
授業のねらい	保育現場で必要な基礎的な歌唱技術、ソルフェージュ力を実践的に学ぶ。
到達目標	保育現場でよく歌われている季節の歌、園生活の歌をそれぞれ数曲はいつでも歌うことができる。 おおむねイ音～二点ホ音の音符を音名の書き込みなしに読むこと・正しい音で歌うことができる。 基礎的なリズムパターンにおいて、正しいリズムで歌うことができる。
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果（70%）および授業態度と参加の積極性（30%）を踏まえ、総合的な観点で評価する。
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。
関連資格	保育科:保育士
関連科目	こどものうたⅡ
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。

担当教員	藤岡 渉子	実務経験	○
実務内容	保育園リトミック講師、声楽・ピアノ講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、評価、子どもの歌について
2	園生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱①
3	春の歌	春の歌の歌唱と拍
4	春の歌	春の歌の歌唱と2拍子
5	春の歌	春の歌の歌唱と3拍子
6	春の歌	春の歌の歌唱と4拍子
7	春の歌	春の歌の歌唱と2分割（バイナリー・ビート）・3分割ビート（ターナリー・ビート）
8	成果発表①	歌唱発表
9	線生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱②

10	夏の歌	夏の歌の歌唱とリズムパターン
11	夏の歌	夏の歌の歌唱とリズムパターン
12	夏の歌	夏の歌の歌唱とフレーズ
13	夏の歌	夏の歌の歌唱とフレーズ
14	夏の歌	夏の歌の歌唱と強弱
15	成果発表②	歌唱発表
16	線生活の歌・うたあそび	園生活の歌・うたあそびの歌唱③
17	秋の歌	秋の歌の歌唱
18	秋の歌	秋の歌の歌唱
19	秋の歌	秋の歌の歌唱
20	秋の歌	秋の歌の歌唱
21	秋の歌	秋の歌の歌唱
22	秋の歌	秋の歌の歌唱
23	成果発表③	歌唱発表
24	冬の歌	園生活の歌・うたあそびの歌唱④
25	冬の歌	冬の歌の歌唱
26	冬の歌	冬の歌の歌唱
27	冬の歌	冬の歌の歌唱
28	冬の歌	冬の歌の歌唱
29	冬の歌	冬の歌の歌唱
30	成果発表④	歌唱発表と一年の振り返り

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	演習	科目名	実習指導Ⅰ		
必修選択	選択	（学則表記）	実習指導Ⅰ		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	2	60
使用教材	０～５歳児の手あそうたあそび 実習系教科書は各校判断		出版社	ナツメ社	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	実習生として好感の持たれる対応や立ち居振る舞いを実践できる。 保育者になるために必要な知識と実習に向けての技術を身に付ける。		
到達目標	実習生に必要な身だしなみやマナー、言葉遣いができる。 日誌と指導案を書くことができる。 子ども目線で手遊びや発表をすることができる。		
評価基準	授業内で実施する試験、レポート提出など課題の結果(70%)および授業態度と参加の積極性(30%)を踏まえ、総合的な観点で評価する。		
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者。成績評価が3以上の者。		
関連資格			
関連科目	実習指導Ⅱ・実習指導Ⅲ・保育観察実習		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	大路 恵	実務経験	○
実務内容	保育園にて主任・子育て支援業務・新人研修等を担当		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開		
回数	単元	内容
1	【実習の基本】 実習の種類と目的	・実習指導Ⅰの授業目的とゴール、3年間の実習スケジュールを理解する。 ・実習の目標と心構え、実習の種類を理解する。 ・各学年の実習生の目標（目指す姿）を理解する。 ・保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を知る。 ・なぜ実習をするのか、実習の目的と得られる経験について学びを深める。
2	【実習の基本】 幼稚園・保育園・認定こども園	・幼稚園と保育園、認定こども園の違いを理解する。 ・幼稚園と保育園の１日の流れや違いを理解する。認定こども園について学ぶ。 （フエルトネーム作成の予告）
3	【実習の基本】 幼稚園・保育園・認定こども園	・幼稚園教諭と保育士の仕事を理解する。 ・保育園の１日の映像を見て、保育の仕事をイメージし、保育園の１日の流れを知る。

4	【実習の準備】 フエルトネーム作成	・実習で使うフエルトネームの説明を受け、図案の作成について学ぶ。 ・子どもに興味を持ってもらえる図案と色使いを考え、図案を作成する。 ・安全ピンやエプロンに縫い付けるなど園によりネームの扱いに違いがあることを学ぶ。
5	【実習の準備】 フエルトネーム作成	・図案のアドバイスをもとに、大きさや見やすい色、文字フォントを理解する。 ・型紙作成方法とフエルトや刺しゅう糸など必要な道具と縫い方を学ぶ。 ・子どもが触れても外れないように丁寧に作る。
6	【実習の準備】 フエルトネーム作成	
7	【保育の実践】 絵本の読み聞かせ	・絵本の選び方を理解し、季節に意識しながら次年度の実習で読みたい絵本を選ぶ。 ・絵本の読み聞かせの仕方、部分実習と指導案の目的について理解する。
8	【保育の実践】 絵本の指導案	・絵本の読み聞かせの指導案の書き方を学ぶ。 ・自分で選んだ絵本について指導案を作成する。 ・２年次の実習で使用する指導案の清書を完成させる。 ・清書した指導案の扱い方を学ぶ。
9	【保育の実践】 絵本の指導案	
10	【保育の実践】 絵本の指導案	
11	【保育の実際】 指導案の組み立ての基本	・絵本の指導案を基本に、短い活動の指導案のポイントを学ぶ。 ・絵本の指導案との違いを理解する。
12	【実習の準備】 実習の心構え/スタイル オリエンテーション/電話かけ	・実習生として心構えと実習生の動き、子どもとのかかわり方を学ぶ。 ・実習スタイルを理解する。（地域支援実践の導入） ・園での実習オリエンテーションの内容と電話かけのマナーを学ぶ。
13	【保育の実践】 日誌の種類と書き方	・日誌の必要性と種類、内容を理解し、書き方を学ぶ。 ・登園の様子を想像しながら、日誌を書く。
14	【保育の実践】 日誌の書き方	・日誌の書き方を理解する。
15	【保育の実践】 日誌の書き方	・日誌の書き方を理解する。
16	【振り返りとまとめ】	・振り返りとまとめを行う。 ・手遊びの発表を行う。
17	【保育の実践】 日誌の書き方	・日誌の書き方を振り返り、感想と考察の書き方を学ぶ。 ・子どもたちの主体的な活動を導く関わりについて学ぶ。
18	【保育の実践】 日誌の書き方	・エピソード記録の書き方を学ぶ。
19	【保育の実践】 日誌の書き方	・エピソード記録の書き方を学ぶ。
20	【次年度の実習に向けて】 実習先の選び方	・２～３年次の実習について学び、実習先の決め方を理解する。 ・実習で必要な用語を再確認する。 ・実習生紹介書の目的と書き方を理解する。
21	【実習の基本】 実習生のマナー	・必要な身だしなみや立ち居振る舞いを理解する。 ・実習生に必要な在り方を学ぶ。
22	【実習の基本】 実習生のマナー	
23	【保育の基礎】 幼児の発達	・幼児の発達を理解する
24	【観察実習に向けて】 実習準備	・実習日誌の事前記入を行う。 ・実習に必要な準備を行う。

<table>
<tr><td>25</td><td>【保育の実際】
指導案の組み立て</td><td rowspan="3">・幼児向けの指導案の題材を考える。
・短い活動の指導案の遊びの組み立てを学ぶ。
・製作やゲームの指導案の書き方を理解し作成する。</td></tr>
<tr><td>26</td><td>【保育の実際】
指導案の作成</td></tr>
<tr><td>27</td><td>【保育の実際】
指導案の作成</td></tr>
<tr><td>28</td><td>【観察実習に向けて】
実習の心構えと仕上げ</td><td rowspan="2">・実習生の心構えを学ぶ。
・１日の実習生の動き、子どもとの関わり方を理解する。
・お礼状と報告書の書き方を理解する。</td></tr>
<tr><td>29</td><td>【観察実習に向けて】
実習の心構えと仕上げ</td></tr>
<tr><td>30</td><td>【次年度の実習に向けて】
まとめ</td><td>・進級後、２年次の実習までのスケジュールを理解する。
・確認と実習シミュレーション</td></tr>
</table>

シラバス

科目の基礎情報①					
授業形態	実習	科目名	保育観察実習		
必修選択	選択	（学則表記）	保育観察実習		
開講				単位数	時間数
年次	1年	学科	こども総合学科	1	45
使用教材	なし		出版社	なし	

科目の基礎情報②			
授業のねらい	保育のやりがいや楽しさを再認識し、学校での学習意欲を高める。		
到達目標	①保育所、児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。 ②観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。		
評価基準	実習評価40　日誌・指導案60　を基本的配分とした上で、提出物・巡回指導を総合的に評価する。		
認定条件	実習規定に定める必要時間数以上の出席をしている者。 成績評価が３以上の者。		
関連資格			
関連科目	実習指導Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する。		
担当教員	山口 紗季　　他1名	実務経験	
実務内容			